

学位論文要約

モンテッソーリ・メソッドにおける音楽教育の特質

広島大学大学院教育学研究科

文化教育開発専攻 音楽文化教育学分野

D134827 藤尾 かの子

論文題目

モンテッソーリ・メソッドにおける音楽教育の特質

目次

序章

第1節 本研究の背景と目的

第2節 先行研究の検討

第1章 モンテッソーリの音楽教育

第1節 モンテッソーリ・メソッドにおける音楽教育の位置付け

第1項 モンテッソーリ・メソッドの基底

第2項 モンテッソーリ・メソッドの目的と方法

第3項 モンテッソーリ・メソッドの構成分野と音楽教育

1. 「日常生活の練習」の概要

2. 「感覚」の概要

3. 「言語」の概要

第4項 芸術的想像力と音楽教育

第2節 モンテッソーリの著述にみる音楽教育論の変遷

第1項 第1期：ローマにおける「子どもの家」の開設期

第2項 第2期：小学校教育の萌芽期

第3項 第3期：音楽と身体の融合体験を重要視するリズム活動の始動期

第4項 第4期：モンテッソーリ晩年のインド時代

第3節 モンテッソーリの幼児期及び児童期の音楽教育カリキュラム

第1項 静けさの体験

第2項 音質・楽音の弁別

第3項 記譜・読譜

第4項 移調の学習

第5項 歌唱

第6項 リズム活動

第7項 音楽理論

第8項 楽器演奏

第9項 音楽鑑賞

第10項 作曲

第4節 モンテッソーリの音楽教育観

第1項 モンテッソーリの音楽指導法の特徴

第2項 モンテッソーリの音楽教育観の特徴

第2章 マッケローニの音楽教育

第1節 マッケローニの音楽教育論

第1項 マッケローニの教育活動概略

第2項 マッケローニの音楽教育思想

第2節 マッケローニの音楽カリキュラム

第1項 〈音感ベル〉

1. *Psicomusica: Orecchio, Occhio, Voce, Mano* (1955)
2. *Music Book* より第1巻 *The First Book* (n.d.)
3. 〈音感ベル〉指導法の特徴

第2項 歌唱

1. マッケローニの歌唱論
2. 歌唱活動の内容
3. 歌唱指導の特徴

第3項 音価の活動

1. *Music Book* より第2巻 *Value of Notes* (n.d.) の位置付け
2. 音価の基礎的指導法
3. 音価の教材
4. 音価の活動内容及び指導法

第4項 〈トーンバー〉

1. *Psicomusica: Costruisco la Scala* (1956)
2. *Music Book* より第3巻 *Major Scales* (n.d.) 及び第4巻 *Minor Scales* (n.d.)
3. 〈トーンバー〉指導法の特徴

第5項 旋律の学習：*Music Book* より第5巻 *Melody* (n.d.)

第6項 音楽作品の解釈

1. 幼児期（3歳から5歳）における記譜・読譜
2. 幼児後期から児童期（5歳から10歳以下）の記譜・読譜
3. *Music Book* より第6巻 *A Musical Reader* (n.d.)

第7項 音楽鑑賞及び子どものためのコンサート

1. マッケローニの音楽鑑賞教育論
2. 音楽鑑賞の指導法
3. 子どものためのコンサート

第3節 マッケローニの音楽教育観

第1項 *Music Book* にみられる音楽指導法の系統性

第2項 マッケローニの音楽教育観の特徴

第3章 バーネットの音楽教育

第1節 バーネットの音楽教育論

第1項 バーネットの教育活動概略

第2項 バーネットの音楽教育思想

第2節 バーネットの音楽カリキュラム

第1項 リズム活動の目的・内容・方法

第2項 音楽理論ならびに記譜・読譜への展開

第3節 バーネットの音楽教育観

- 第1項 バーネットの音楽指導法の特徴
- 第2項 バーネットの音楽教育観の特徴

第4章 ミラーの音楽教育

第1節 ミラーの音楽教育論

- 第1項 ミラーの教育活動概略
- 第2項 ミラーの教育観
- 第3項 ミラーによる子どもの音楽的発達論
- 第4項 モンテッソーリ・メソッドにおける音楽教育の目的
- 第5項 音楽教育の在り方

第2節 ミラーの音楽カリキュラム

- 第1項 歌唱
- 第2項 聴く
- 第3項 〈音感ベル〉の活動と音楽理論
- 第4項 動き
- 第5項 リズム
- 第6項 楽器
- 第7項 ゲームと音楽表現
- 第8項 創作

第3節 ミラーの音楽教育観

- 第1項 ミラーの音楽指導法の特徴
- 第2項 音楽指導法にみるミラーとマッケローニとの比較
- 第3項 ミラーの音楽教育観の特徴

終章 モンテッソーリ・メソッドにおける音楽教育の特質

- 第1節 モンテッソーリ，マッケローニ，バーネット，ミラーの音楽教育の実際と位置付け
- 第2節 「創造性」の育成を目指すモンテッソーリ・メソッドにおける音楽教育の真価

文献

- i. 史料
- ii. Web 史料
- iii. 参考文献
- iv. 参考 Web 資料
- v. 参考 Web サイト

序章

モンテッソーリ・メソッドに基づく音楽教育の考案と発展に寄与した主要な人物として、メソッド全体の基盤を築いたモンテッソーリ (Montessori, Maria 1870–1952) をはじめとし、モンテッソーリと共に音楽教育の確立に寄与したマッケローニ (Maccheroni, Anna Maria 1876–1965) とバーネット (Barnett, Elise Braun 1904–1994), 及び、1970年代から2017年までメソッドに基づく音楽教育に携わったミラー (Miller, Jean Karen 1935–現在) の4者が存在する。ミラーは自身の博士論文 (1981) において、モンテッソーリ・メソッドに基づく、幼児を対象とした音楽カリキュラムを提案した。この音楽カリキュラムは、モンテッソーリ、マッケローニ、及びバーネットの3者による音楽教育を引き継ぎながらも、ミラーの師や協力者、そして彼女独自の視点が加えられており、モンテッソーリらの音楽教育を現代化したという点において特徴がみられる。

上記4者の音楽教育に焦点を当てた先行研究は、音楽教育の活動内容や指導法の一部に焦点化したものが大半を占めている。モンテッソーリらの音楽教育について最も体系的に論じているミラーでさえ、マッケローニの全ての史料は取り扱っておらず、彼女の音楽教育観を明らかにするには至っていない。つまり、モンテッソーリ・メソッドにおける音楽教育をカリキュラムという視点から捉え、その全体像を明らかにした先行研究は未だ存在しないのである。また先行研究には、モンテッソーリからミラーに至るまでの音楽教育が、モンテッソーリが教育を通して目指した「創造性」の育成にどのような関連性を有するのか、という根本的な観点が欠如しており、モンテッソーリ・メソッドにおける音楽教育の位置付けや特質については言及されていない。モンテッソーリ・メソッドが、モンテッソーリの教育理念の上に成り立つ組織的な教育法である限り、彼女の理念の中核をなす理念である「創造性」を含めてどのような音楽教育であるのかを明確にしようとする視点を持つことは、モンテッソーリ・メソッドにおける音楽教育を正確に理解する上で重要な作業であろう。本研究は、この点を精査しようとするものである。

こうした課題の解決に向けて、本研究では、モンテッソーリ、マッケローニ、バーネット、及び、ミラーの4者の各々の音楽教育に焦点を当てる。本研究がモンテッソーリと共に音楽教育を開発したマッケローニとバーネットのみならず、ミラーを取り上げるのは、ミラーの音楽教育がモンテッソーリらの音楽教育をそのまま引き継いでいるのではなく、新たな要素を加え現代化させたということには、「創造性」をめぐる問題が潜んでいる可能性があるためである。このようなことから、上記4者の音楽教育を俯瞰することで初めて、モンテッソーリ・メソッドにおける音楽教育がどのような特質を有するのか、ということが明らかになると考える。

そこで本研究では、彼女らの考案した音楽教育が、モンテッソーリ・メソッドの枠組みにおいてどのような位置付けであるのかを考察した上で、モンテッソーリ・メソッドに基づく音楽教育の特質を解明することを目的とする。

第1章 モンテッソーリの音楽教育

第1節では、モンテッソーリ・メソッドの目的が、子どもが自らを世界に調和させながら、自分の望むことを成し遂げることができるような創造性を育むことであることを確認した上で、モンテッソーリ・メソッドにおける音楽教育の位置付けについて論じた。

幼児期の音楽教育の基礎的な活動は、モンテッソーリ・メソッドを構成する分野の「日常生活の練習」、「感覚」、「言語」に位置する。モンテッソーリは、音楽をするために必要な「芸術的想像力」(モンテッソーリ・阿部, 1990, p.190) を促すために、これらの分野の中でも「感覚」分野の果たす役割が大きい

と捉えていた。

第2節では、モンテッソーリの音楽教育に関する論調を、第1期：イタリア・ローマにおける「子どもの家」開設期、第2期：小学校教育の萌芽期、第3期：音楽と身体の融合体験を重要視するリズム運動の始動期、第4期：モンテッソーリ晩年のインド時代、と区分し、モンテッソーリの音楽教育観の変遷を明らかにした。

検討の結果、モンテッソーリの論調には、幼児期における音楽的な耳の育成、及び、子どもが身体全体で動きながら音楽性を培うこと、という2点が一貫して重視されていることが明らかとなった。一方、モンテッソーリの論調の変化は、第2期、すなわちメソッド開始時からおよそ10年が経過した1916年にみられた。この時期にモンテッソーリは、新教育運動の理論的指導者であるデューイ (Dewey, John 1859-1952) をはじめとし、キルパトリック (Kilpatrick, William Heard 1871-1965) やボイド (William Boyd, 1874-1962) らから、モンテッソーリ・メソッドで扱う教具は無味乾燥であるために、子どもに不十分な自己表現しか与えないという批判を受けた (モンテッソーリ・阿部, 1990, p.33)。モンテッソーリは彼らの批判への対策を講じるために、作曲・楽器演奏・音楽鑑賞といった、子ども自身で音楽を感受し、創造する能力を育成するための活動を拡大することを図ったのである。

第3節では、幼稚園から小学校課程のカリキュラムまでを含むモンテッソーリの著書 *L'autoeducazione: nelle Scuole Elementari* (1916) を中心的に取り扱い、実際の音楽教育カリキュラムとその活動内容を明らかにした。

モンテッソーリの音楽教育カリキュラムは、大きく分類して、①静けさの体験、②音質・音高の弁別、③記譜・読譜、④移調の学習、⑤歌唱、⑥リズム活動、⑦音楽理論、⑧楽器演奏、⑨音楽鑑賞、⑩作曲、という10の活動項目から構成されており、①を除く各々に教具・教材が配置されていることが明らかになった。そして、これらの活動において共通する特徴的な点は、硬直した知識としてではなく、「聴く」そして「動く」という体験型の方法で音楽的感覚を育成したり、概念理解へと導かせようとする点であった。

第4節では、ここまで言及したモンテッソーリの音楽教育論及び音楽教育のカリキュラム内容をもとに、モンテッソーリの音楽教育観を考察した。

モンテッソーリの音楽教育観の特徴は、感覚を通して身の回りの環境の全てを吸収することや、動きながら学ぶ、という幼児期の発達上の特性を考慮し、幼児が音楽の本質的概念を体験的に理解するための活動を段階的に導入したことであると言える。ただし、単に音楽的概念の理解が直接的な目的ではない、ということは強調すべき点である。音楽的要素を細分化させて学習させるカリキュラムを構築したモンテッソーリの意図は、最終的に子どもが確かな音楽的感覚と音楽的概念に基づいて自由に音楽を創作したり、音楽を深いレベルで聴くことを目指すことにあったことが明らかになった。

第2章 マッケローニの音楽教育

第1節では、モンテッソーリ・メソッドを実践へと移行した1907年当初から、モンテッソーリの晩年まで彼女の協力者であったマッケローニの音楽教育論について言及した。

マッケローニは、子どもが活動を通して習得した正確な音楽理論と、歌唱や演奏を含む基本的な音楽のスキルを基盤として、自己表現としての創造的活動へと至ることを重要視していた。それに加え、マッケローニは音楽教育において音楽鑑賞を重視していることについても言及した。音楽鑑賞では、楽曲をただ単に感覚的に聴くのではなく、音楽の構成要素を意味する「音楽的な言語」(Maccheroni, n.d-7., p.3) を基準としながら論理的な思考を働かせることによって、メロディーが内包している固有の世界観を感

じ取るレベルにまで達することが目的として掲げられていた。

第2節では、マッケローニの音楽カリキュラムを、①〈音感ベル〉、②歌唱、③音価の活動、④〈トーンバー〉、⑤旋律の学習、⑥音楽作品の解釈、⑦音楽鑑賞及び子どものためのコンサート、という7つの活動項目に沿って明らかにした。

第3節では、マッケローニの音楽教育論、音楽教育のカリキュラム、音楽指導法をもとに、マッケローニの音楽教育観を考察した。

マッケローニの音楽指導法は、幼児期から児童期の発達段階に応じ、音楽活動の内容が漸次的に高度化するという点において、教育的配慮がなされていることが明らかになった。しかしそれは、創造的で表現的な内容というよりは、音楽的要素の概念化・理論化に重点が置かれた内容であった。

このように、マッケローニが音楽的要素を子どもに理解させることを徹底したことは、彼女が音楽を「音楽的な言語」と表現していることに深く結び付いていると考えられる。すなわちマッケローニは、子ども自身が音楽に込められている世界観を解釈するためには、音楽における共通言語とも言える音符、音楽的要素、音楽形式等の、音楽を形作る要素の理解が必須であるとしたのである。

第3章 バーネットの音楽教育

第1節では、1920年代初頭にウィーンの「子どもの家」(Haus der Kinder)の教師として働き、モンテッソーリからリズム活動の考案を託されたバーネットの音楽教育論について述べた。

バーネットの教育思想の根底には、教育において子どもの自発性を重んじるというモンテッソーリの中核的な思想が据えられている。それを前提として、バーネットが音楽指導法に取り入れているモンテッソーリ・メソッドの要素は、各分野の系統的な教具体系、段階性を有する指導法、及び、幼児期の子どもの動きの要求に応えた指導法、という3点であった(Barnett, 1967, pp.10-11)。そして、身体の動きと音楽のリズムの融合を重視するリズム活動とそれを基礎として発展する理論的な学習のカリキュラムを構築するに至ったことが明らかになった。

第2節では、バーネットによって考案されたリズム活動及びそれに基づく理論的学習の音楽カリキュラムについて明らかにした。まず、リズム活動では、子どもが音楽を聴き、その音楽のリズムに身体を自力で適合させていくことを通して、リズム感覚を習得することが目的として設定されていた。一方、理論的学習では、子どもが音楽を感覚的に聴くことを基点として、そのリズムに合わせて動くことを通して培ったリズム感覚に音符や言葉を一致させることによって、記譜・読譜や音楽用語を習得させるという方法であった。この一連の指導プロセスは、モンテッソーリの考案した「言語」分野の基本的な指導法とまさに同じプロセスをたどっている点に特徴がみられた。

第3節では、バーネットの音楽教育論及び音楽カリキュラムをもとに、バーネットの音楽教育観について言及した。

バーネットは、リズム活動を通して、子どもの自由な表現を促すことを目指した。ところが、バーネットの実際の指導法は、子どもがリズムを習得するまで、教師の演奏する曲を繰り返し聴かせ、その曲のリズムに子どもが自力で身体を合わせて動くことを求めている。このことから、バーネットのリズム活動は、リズム感覚の育成に主眼が置かれていることは明らかであり、課題中心主義的な立場であると結論付けた。

第4章 ミラーの音楽教育

第1節では、マッケローニの孫弟子にあたり、2017年まで Association Montessori Internationale が運営

する小学校課程の教師養成コースのトレーナーを務めていたミラーの音楽教育論について言及した。

ミラーはモンテッソーリ・メソッドにおける教育の形態、すなわち「活動のサイクル」を通して子どもに育まれるものを「創造性」だとしている（Miller, 2016, p.1）。これはミラーの教育観の中心的概念として位置付けられており、音楽教育の基本的理念でもある。音楽教育の目的としては、子どもが音楽表現や音楽知識を多角的に習得することによって、それらを創造的に統合するレベルに達すること、すなわち創作の技法を培うことだとしている（Miller, 1981, p.334）。

第2節では、ミラーの博士論文を中心に検討することを通して、ミラーの音楽カリキュラムを、①歌唱、②聴く、③〈音感ベル〉、④動き、⑤リズム、⑥創作、という6つの領域に加え、「楽器」及び「ゲームと音楽表現」、という2つの副次的な領域から明らかにした。

第3節では、ミラーの音楽教育論及び音楽カリキュラムをもとに、ミラーの音楽教育観を考察した。

ミラーの音楽指導法の特徴は、創造性、協働性、他領域との関連性、という3つのキーワードとして言い表すことができる。この点が、モンテッソーリをはじめ、マッケローニやバーネットにはみられないミラー独自の特徴であった。また、ミラーの音楽カリキュラムにおいて創造性を色濃く反映しているのは、各領域で創作の技法を培うための活動が配置されており、最終的には創作の技法を自由に組み合わせることで、より高度な創作を行うことが目指されている部分であると結論付けた。

終章 モンテッソーリ・メソッドにおける音楽教育の特質

第1節 モンテッソーリ、マッケローニ、バーネット、ミラーの音楽教育の実際と位置付け

本節では、ここまでに論じてきた4者各々の音楽教育の内容を整理することによって、音楽教育の実際を明らかにし、モンテッソーリ・メソッドにおける音楽教育の位置付けについて論じた。

まずモンテッソーリは、音楽教育の枠組みの中で音楽的な能力を育成しようとしながらも、音楽教育を通して、モンテッソーリ・メソッドの包括的な目的、すなわち子どもが自分自身の特別な目的を実現するための「創造性」を育成することを目指したということが明らかとなった。また、ここで強調すべき点は、自己実現のためだけに「創造性」を発揮させるのではなく、社会生活において他者と共存する中で自らの「創造性」を文明の発達に貢献させることが重視されていることである。モンテッソーリ・メソッド全体の目指すところが「創造性」の育成である限り、メソッドを構成する音楽教育の根底には、この目的が据えられているのである。モンテッソーリがマッケローニやバーネットに音楽教育の活動内容や教具・教材の開発を託したとは言え、モンテッソーリ・メソッドの最大の目的は、彼女の音楽教育全体において一貫している。そして、このことが最も顕著に表れているのは、音楽の基礎的な技術や知識の育成のための活動を実施しながらも、教師が主導的に行う音楽教育を批判的に捉え、子どもの自由な音楽の聴取や音楽を通しての自己表現を尊いものとして考えていた点である。

次に、モンテッソーリから音楽教育の内容の充実を図るように託されたマッケローニとバーネットに焦点を当てた。マッケローニとバーネットの両者共に、最終的には音楽を通じた自己表現を目指しているが、それに至るまでの活動過程では、各々の音楽活動で設定されている目的、すなわち、感覚や身体運動を通して習得する技術の獲得及び概念形成に重点を置いている。彼女らの音楽カリキュラムは、子ども自身の自由な表現を促す音楽活動というよりも、教師側が意図するねらいを達成することに重点を置く、課題中心主義的な性質を有しており、音楽の専門教育の性質を強く有するものだと言える。

最後に、モンテッソーリらの音楽教育を引き継ぎながらも、その内容を現代化したミラーの音楽教育を概観した。その結果、ミラーの音楽教育は、①音楽活動の中で「協働すること」を条件として挙げていること、②教具を用いた音楽活動を引き継ぎながらも、音楽カリキュラム全体を通して、ゲームや遊

びの要素を数多く取り入れていること、③子どもの発達段階や興味・関心に沿うように、活動内容を変化させることを許容する柔軟な音楽カリキュラムであること、という3つの特徴が浮き彫りとなった。

以上を総じて、モンテッソーリ・メソッドにおける音楽教育の位置付けを述べると、単に音楽的な能力や技術を育成するというに終始するのではなく、モンテッソーリが自身のメソッド全体を通して子どもに育成しようとした「創造性」、すなわち、子どもが自分自身の特別な目的を実現する能力、及び、社会生活において他者と関わり合う中で自己を貢献させることのできる能力の育成を実現しようとするのだと言えよう。換言するならば、モンテッソーリはモンテッソーリ・メソッド全体を通して育成を目指していた「創造性」を音楽教育の枠組みの中でも達成させることを意図していたということである。そして、この「創造性」を育むために、モンテッソーリが音楽教育の枠組みの中で肝要としたのは、モンテッソーリ教具を用いた音楽の自己活動、子どもの自由な発想を基点とする音楽的表現、及び、他者と音楽を共有する協働的な活動、という3点である。マッケローニとバーネットは、このようなモンテッソーリの理想とする音楽教育を実践へと移行することを試み、音楽のカリキュラムの構築に尽力したが、実際の音楽教育の内容は音楽的な能力の育成に傾倒し過ぎていた。つまり、彼女らの音楽教育はモンテッソーリの掲げる「創造性」の一部分の達成しか適っておらず、「創造性」への理解が偏狭であることが窺える。それに対し、ミラーは、モンテッソーリの「創造性」を音楽教育の中核に据え、音楽的な能力と協働性という2つの側面からの育成を図っている。まさにミラーは、モンテッソーリの理想とする音楽教育のかたちを実現したと言えよう。

第2節 「創造性」の育成を目指すモンテッソーリ・メソッドにおける音楽教育の真価

以上のことから、ミラーはモンテッソーリの定義する「創造性」の育成を重視し、それを音楽教育の中で体現したことが明らかとなった。具体的にミラーは「創造性」を次の2つの側面から捉えていた。1点目は、「創造性」をある限られた領域のみならず、子どもを取り巻くあらゆる物事に存在するものとして捉えていることである。2点目は、子どもが成長する過程において、自己、社会、文化、という人間界を構成する3つの枠組みの中で「創造性」を育むことを重視していることである。

このようにミラーが音楽教育を発展させ、現代化させた背景には、モンテッソーリの定義する「創造性」を正確に捉えたことによる結果としてのみならず、1950年代後半からアメリカの音楽教育界やそれを包括する教育界全般の改革が影響していると推測できる。ミラー自身、モンテッソーリらの音楽教育の内容に対して批判してはいないが、モンテッソーリ・メソッドの音楽教育のカリキュラムを新たに構築していく上で、活動内容や指導法に関しては、協働することを通して創造性を培うことを重視する、1960年代から1970年代のアメリカにおける音楽教育界の中核的な理念の影響を色濃く受けたと言える。

以上を総括すると、モンテッソーリ・メソッドにおける音楽教育の特質とは、モンテッソーリの教育思想に一貫して流れる人格形成のための「創造性」を、ミラーが協働性や領域横断型という新たな要素を取り入れた音楽教育として再構築し、体現することに貢献した点だと言える。ミラーの音楽カリキュラムは、モンテッソーリをはじめ、マッケローニやバーネットが重視した音楽の構造理解に依拠しながらも、音楽の活動形態や手法を多様化させた点において特筆されるべきものである。実際、モンテッソーリは時代の流れの中で、その時々に応じた文明に子どもを適応させることを重視した（モンテッソーリ, 2005, p.57）。このようなことから、音楽教育が現代化する中で、その方向性に沿って展開されたミラーの質的により高次の音楽教育は、モンテッソーリの教育思想から外れたものであるというよりむしろ、モンテッソーリ・メソッドに基づく音楽教育としてより妥当な在り方を示したと言える。さらに言うと、モンテッソーリの定義する「創造性」を中核に据えたミラーの音楽教育は、知識重視ではなく、コミュ

ニケーションや創造性を働かせる芸術領域の重要性を認識させるものであると共に、モンテッソーリ・メソッドの独自性をより強めるものとして評価できるだろう。

文献

i. 史料

- Barnett, E.B. *The Montessori Approach to Music for Young Children*. New York: American Montessori Society, 1965.
- Barnett, E.B. "The Montessori Approach to Music." *The piano quarterly*, No.58, New York: Piano Teachers Information Service, 1967, pp.10-19.
- Barnett, E.B. *Montessori Music: Rhythmic Activities for Young Children*. 2nd ed, New York: Schocken Books, 1973.
- Barnett, E.B. *A Discography of the Art Music of India*. Michigan: The Society for Ethnomusicology, Inc., 1975.
- Barnett, E.B. "Montessori and Music." *The NAMTA Journal*, Vol.24, No.3, 1999, pp.69-77.
- Maccheroni, A.M. *Psicomusica: Orecchio, Occhio, Voce, Mano*, n.p, 1955.
- Maccheroni, A.M. *Psicomusica: Costruisco la Scala*. Rome: Vita dell'Infanzia, 1956.
- Maccheroni, A.M. *The Developing Musical Senses: the Montessori Approach to Music for the Ear, Voice, Eye, and Hand*. Trans. Rosina Brienza. Santa Barbara: Greenwood Press, 1966.
- Maccheroni, A.M. *Biblioteca Musicale Concerti per Bambini*. unpublished manuscript, from AMI's archives, document MAC33, Amsterdam: Montessori-Pierson Publishing Company, n.d-1.
- Maccheroni, A.M. *Camminiamo con la Melodia*. unpublished booklet No.1, from AMI's archives, documents MAC1a and 1b, Amsterdam: Montessori-Pierson Publishing Company, n.d-2.
- Maccheroni, A.M. *Disegno Ritmico*. unpublished booklet No.5, from AMI's archives, document MAC6, Amsterdam: Montessori-Pierson Publishing Company, n.d-3.
- Maccheroni, A.M. *Psicomusica: il Primo Libro del Bambino*, Ed. Fausto Tagliamonte, n.p., n.d-4.
- Maccheroni, A.M. *Psicomusica: Lunghezza delle Note in Brevi Melodie*. unpublished booklet No.4, from AMI's archives, document MAC5a, Amsterdam: Montessori-Pierson Publishing Company, n.d-5.
- Maccheroni, A.M. "The Bells." Lecture 37, 10th International Course in London, 28 June, 1921, unpublished manuscript from the Maria Montessori Archives held at the Association Montessori Internationale, Amsterdam: Montessori-Pierson Publishing Company, n.d-6.
- Maccheroni, A.M. *The Montessori Method: Music and the Child*. Battersea: Salesian Press, n.d-7.
- Maccheroni, A.M. *Music Book: The First Book*, n.p., n.d-8.
- Maccheroni, A.M. *Music Book: Value of Notes*, n.p., n.d-9.
- Maccheroni, A.M. *Music Book: Major Scales*, n.p., n.d-10.
- Maccheroni, A.M. *Music Book: Minor Scales*, n.p., n.d-11.
- Maccheroni, A.M. *Music Book: Melody*, n.p., n.d-12.
- Maccheroni, A.M. *Music Book: A Musical Reader*, n.p., n.d-13.
- Miller, J. K. "The Montessori Music Curriculum for Children up to Six Years of Age." Ph.D. dissertation, Case Western Reserve University, 1981.
- Miller, J.K. "Singing." *The NAMTA Journal*, Vol.24, No.3, 1999, pp.78-91.
- Miller, J.K., and Sanchez, Marta. "Dalcroze, Montessori and Preschool Music Teaching: Music in the Montessori

- curriculum: an Approach to Preschool Music Teaching.” *American Music Teacher*, Vol. 40, No. 6, 1991, pp.26-27.
- Miller, J.K. “Question and Answer: Music for the 6-9 years olds.” *Communications*, 2006, n.pag.
- Miller, J.K. *Montessori Music: Sensorial Exploration and Notation with the Bells*, California: Nienhuis Montessori USA, 2008.
- Miller, J.K. “Preparation for Music in a Montessori Environment.” journal title nunknown, pp.16-17, n.p., n.d.
- Montessori, M. *il Metodo della Pedagogia Scientifica Applicato all’ Educazione Infantile nelle Case dei Bambini*. Rome: Max Bretschneider, 1909.
- Montessori, Mario M. et al. *Communication: Special Issue Dedicated to Anna Maria Maccheroni*. Ed. Association Montessori Internationale, 1966.
- Montessori, M. *La Scoperta del Bambino*. 13th ed. Milano: Garzanti, 2014.
- Montessori, M. Lecture 11 on Montessori Training Course in London, dated 30, April, 1925, unpublished manuscript, from the Maria Montessori Archives held at the Association Montessori Internationale, Amsterdam: Montessori-Pierson Publishing Company, n.d-1.
- Montessori, M. “Sound-Bells” Lecture 18, course unknown, dated 16, May, 1929, unpublished manuscript, from the Maria Montessori Archives held at the Association Montessori Internationale, Amsterdam: Montessori-Pierson Publishing Company, n.d-2.
- Montessori, M. Conference, venue unknown, dated 29, April, 1930, unpublished manuscript, from the Maria Montessori Archives held at the Association Montessori Internationale, Amsterdam: Montessori-Pierson Publishing Company, n.d-3.
- Montessori, M. Lecture, course unknown, dated November, 1941, unpublished manuscript from the Maria Montessori Archives held at the Association Montessori Internationale, Amsterdam: Montessori-Pierson Publishing Company, n.d-4.

ii . Web 史料

- Miller, J.K. “Creativity.” *NAMTA Bulletin*, March, 2016, pp.1-4.
<http://www.montessori-namta.org/PDF/March2016Bulletin.pdf> (accessed : 2018/01/13)
- Montessori, M. *The Montessori Method: Scientific Pedagogy as Applied to Child Education in “The Children's House” with addition and revisions by the author*. Trans. George, A.E. New York: Frederick A. Stokes Company, 1912.
<https://ia801406.us.archive.org/12/items/montessorimethod00montuoft/montessorimethod00montuoft.pdf>
 (accessed : 2018/01/30)
- Montessori, M. *Dr. Montessori's Own Handbook*. New York: Frederick A Stokes Company, 1914.
<https://ia800206.us.archive.org/6/items/drmontessorisown01mont/drmontessorisown01mont.pdf>
 (accessed : 2018/01/21)
- Montessori, M. *L'autoeducazione: nelle Scuole Elementari*, Roma: P. Maglione & C. Strini, 1916.
<https://ia801406.us.archive.org/33/items/lautoeducazionen00montuoft/lautoeducazionen00montuoft.pdf>
 (accessed : 2018/01/18)
- Montessori, M. *The Advanced Montessori Method: the Montessori Elementary Material*. Trans. Livingston, A. New York: Frederick A Stokes Company, 1917.

<https://ia800201.us.archive.org/5/items/advancedmontess01montgoog/advancedmontess01montgoog.pdf>

(accessed : 2018/01/30)

Montessori, M. *Dr. Montessori's Own Handbook*. Massachusetts: Robert Bentley, Inc., 1964.

<https://ia801404.us.archive.org/27/items/drmontessorisown00mont/drmontessorisown00mont.pdf>

(accessed : 2018/01/30)

iii. 参考文献

バーネット, ブラウン/ボーン, フランス・桑村清子訳, 『モンテッソーリ音楽—3才~8才の子供のための動きのリズム—』エンデルレ書店, 1981。

ボイド, ウィリアム/中野善達・藤井聰尚・茂木俊彦訳『感覚教育の系譜—ロックからモンテッソーリへ—』日本文化科学社, 1979。

チョクシー, L.・エイブラムソン, R.・ガレスピー, A.・ウッズ, D. /板野和彦訳『音楽教育メソッドの比較—コダーイ, ダルクローズ, オルフ, CM—』全音楽譜出版社, 1994。

藤愛「モンテッソーリの器楽教育—『ドルメツチュ (Dolmetsch)』—とは」『モンテッソーリ教育』第42号, 日本モンテッソーリ協会 (学会), 2009, pp.56-63。

藤愛「モンテッソーリの『リズム練習』と『音楽鑑賞』」『モンテッソーリ教育』第43号, 日本モンテッソーリ協会 (学会), 2010, pp.66-74。

藤尾かの子『言語アルバム』国際モンテッソーリ協会 (Association Montessori International) 公認・国際モンテッソーリ教師養成コース (未刊行), 2013。

藤尾かの子『日常生活アルバム』国際モンテッソーリ協会 (Association Montessori International) 公認・国際モンテッソーリ教師養成コース (未刊行), 2013。

東屋敷尚子「モンテッソーリ教育における音楽指導の理念と内容—音楽的能力の育成と第2の言語としての音楽の可能性に着目して—」『平成23年度 音楽教育研究室研究発表会レジュメ』東京芸術大学音楽教育研究室, 2012, pp.13-18。

広江美奈「モンテッソーリ音楽教育観における問題点」『日本保育学会大会研究論文集』第42号, 日本保育学会, 1989, pp.340-341。

広江美奈「モンテッソーリ教育の音楽に関する一考察」『モンテッソーリ教育』第23号, 日本モンテッソーリ協会 (学会), 1991, pp.64-73。

岩田陽子『Montessori-Method モンテッソーリ教育 (理論と実践) 感覚教育』第3巻, 学習研究社, 1996年。

クレーマー, リタ/平井久監訳, 三谷嘉明・佐藤敬子・村瀬亜里訳『マリア・モンテッソーリ—子どもへの愛の生涯—』新曜社, 1981。

黒西希「J. Millerに基づくモンテッソーリの音楽教育—歌唱活動についての考察—」『モンテッソーリ教育』第45号, 日本モンテッソーリ協会 (学会), 2012, pp.97-106。

菊池由美子「モンテッソーリのリズム運動について—E.B.バーネットのリズム曲集を中心に—」『盛岡大学短期大学部紀要』第16号, 盛岡大学短期大学部, 1993, pp.53-60。

マーク, L. マイケル/松本ミサヲ・田畑八郎訳『音楽教育の現代化』音楽之友社, 1986。

マッケローニ, アンナ/中川操・楠郁子・稲垣千代他訳『モンテッソーリ博士との出会い』エンデルレ書店, 1979。

Meyer, B. "Taped Music Materials for Young Children Based on Montessori Principles." Ed.D. dissertation,

Columbia University Teachers College, 1983.

モンテッソーリ, M. / 鼓常良訳『子どもの発見』厚徳社, 1974。

モンテッソーリ, M. / 平野智美・渡辺起世子訳『私のハンドブック』エンデルレ書店, 1989。

モンテッソーリ, M. / 阿部真美子著訳『自発的活動の原理—続モンテッソーリ・メソッド—』, 明治図書出版, 1990。

モンテッソーリ, M. / 梅根悟・勝田守一監修, 阿部真美子・白川蓉子訳『モンテッソーリ・メソッド』第13版, 明治図書出版, 1992。

モンテッソーリ, M / 吉本二郎・林信二郎訳『モンテッソーリの教育—〇歳～六歳まで—』あすなろ書房, 1970。

モンテッソーリ, M / 中村勇訳『子どもの発見』日本モンテッソーリ教育総合研究所, 2003。

モンテッソーリ, M / 菊野正隆監修, 武田正實訳『創造する子ども』第10版, エンデルレ書店, 2005。

モンテッソーリ, M / 一般社団法人 AMI 友の会 NIPPON 監修, 中村勇訳『1946年ロンドン講義録』風鳴舎, 2016。

Rubin, Jeanne S. “Montessorian Music Method: Unpublished Works.” *The Journal of Music Education*, vol.31, 1983, pp.215-226.

Selman, Rush. “Music, Montessori...and a Little House in Queens: A Tribute to Elise Braun Barnett”, *Montessori Life*, New York: American Montessori Society, 1992.

渡子かおり「モンテッソーリ教育における『運動』と音楽活動—幼児観と提示法に関する試論—」エリザベト音楽大学修士論文, 2009。

iv. 参考 Web 資料

Andrews, Sarah Werner. “Introduction to Music.” Montessori Northwest Primary Course 37, 2013-2014, pp.1-10.
<http://static.squarespace.com/static/519e5c43e4b036d1b98629c5/t/530621efe4b0c569b2009e79/1392910831069/Intro+to+Music+-+C37.pdf> (accessed 2018/01/14)

Consultant Profile: Jean Miller

<https://amiusa.org/wp-content/uploads/2015/06/Miller.pdf> (accessed : 2018/01/30)

v. 参考 Web サイト

Association Montessori Internationale

<https://ami-global.org> (accessed 2018/01/14)

Montessori Northwest

<https://montessori-nw.org> (accessed 2018/01/14)

Montessori-Pierson Publishing Company

<https://montessori-pierson.com> (accessed 2018/01/14)

North American Montessori Teachers' Association

<http://www.montessori-namta.org> (accessed 2018/01/14)